

ピン・チョン Ping Chong's ドキュメンタリー・シアター Undesirable Elements 「生きづらさを抱える人たちの物語」

1月18日(金)~20日(日) シアターイースト 1月26日(土)・27日(日) 大阪・ナレッジシアター公演あり

詳細はP11へ



撮影:高田了平

本人が語り、演じる、さまざまな”障害”

1995年、読売演劇賞作品賞を受賞した『ガイジン〜もうひとつの東京物語 - Undesirable Elements』の演出家ピン・チョンによる新作公演。マルチメディア演劇のパイオニア的存在でもあり、2014年にはアメリカで芸術家への最高の栄誉である国家芸術勲章(National Medal of Arts)受賞。1992年より現在まで、60本を超える“Undesirable Elements”シリーズを制作している。今回は、現代の日本社会で様々な「障害」と向き合う人たちにスポットを当て、演出家の阪本洋三とともに創作に取り組み、社会に潜む課題を掘り上げ、伝え、共有する。

作・演出:ピン・チョン(Ping Chong) 企画・共作・共同演出:阪本洋三 プロデューサー:鈴木京子
出演:岩本陽 大橋ひろえ ジュリア・オルソン(Julia Olson) 成田由利子 西村大樹 ハーミー(HARMY)
【お問合せ】日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 『生きづらさを抱える人たちの物語』公演事務局 03-5577-6627

芸劇+トーク 朗読「東京」第六回

1月24日(木)~27日(日)予定 シアターイースト

詳細はP12へ



2017年第五回公演「目撃博士の不思議な犯罪」

撮影:引能信彦

東京を読み、東京を語る。

2014年にスタートした“東京”をテーマにした、人気リーディング企画、第六弾。東京を描く短編、戯曲、エッセイなど古今の名作に描かれた“東京”を俳優が朗読し、読後のトークで自分にとっての“東京”をそれぞれが語る二部構成でお届けします。

第六回となる今回も、好評を博した前回に引き続き、ドラマプロデューサーとして多くの人気ドラマを制作し、近年では舞台演出も手がける長部聡介を演出に迎えます。一味違う朗読劇による、“東京”の様々な表情をお楽しみください。

演出:長部聡介 トーク聞き手:泉麻人
朗読作品:沢木耕太郎 著「長距離ランナーの遺書」 町田康 著「東京飄然」 川上弘美 著「此処彼処」

※出演者については、HPでご確認ください。

芸劇dance Nibroll「悲劇のヒロイン」

2月7日(木)~10日(日) シアターウエスト

詳細はP13へ



音楽美術:岡本健 + メインビジュアル撮影:橋本祐真

今の私たちにとって、本当の”悲劇”とは?

ダンスカンパニー・ニブロールが、芸劇danceシリーズに初進出!

今回の新作では、現実社会で起こるリアルな悲劇と、不幸な自分に酔い不幸を誇張するフェイクの悲劇、また舞台上のフィクションとしての悲劇という3つの異なる時空から“悲劇”の構造を捉えることで、今この瞬間を生きている私たちにとって本当の“悲劇”とは何か?という問いに迫ります。

新しいダンスのかたちを提示し続けるニブロールの次なる挑戦に乞うご期待。

演出・振付:矢内原美邦
出演:笠木泉 川田希 光瀬指絵 皆戸麻衣 望月めいり 【お問合せ】プリコグ precog 03-6825-1223

「世界は一人」

2月24日(日)~3月17日(日) プレイハウス

詳細はP14へ



一人の男のどうしようもない運命を音楽劇で

松尾スズキ、松たか子、瑛太が音楽劇に出演する。それも同級生役で。そんな斬新な舞台『世界は一人』を作・演出するのは岩井秀人だ。綿密な取材をもとに、自身の家族の話も含め、赤裸々な人間の姿を板の上で表現してきた岩井。今度は、やはり取材をもとに、どうしようもない運命を背負った一人の男と、その同級生の人生のねじれと交わりを描く。個人の物語は深めれば深めるほど普遍性を持って響く。音楽という表現が加わることでその世界はより繊細に豊かになるだろう。

文:大内弓子(ライター)

作・演出:岩井秀人 音楽:前野健太 出演:松尾スズキ 松たか子 瑛太 / 平田敦子 菅原永二 平原テツ 古川琴音
演奏:前野健太と世界は一人(Vo,Gt.前野健太 B.種石幸也 Pf.佐山こうた Drs.小宮山純平) 【お問合せ】パルコステージ 03-3477-5858

eyes plus 第7回 ブス会*「エーデルワイス」

2月27日(水)~3月10日(日) シアターイースト

詳細はP14へ



写真:宮川真子

この人にかかれば、女の本音は隠しておけない

原作のないオリジナルの新作は実に3年4ヵ月ぶりとなるブス会*の本公演。前作『お母さんが一緒』と前々作『男たらし』が続けて岸田國士戯曲賞の最終候補作にノミネートされたペヤンヌマキだが、おそらくこの間に英気を養ったはず。主演に鈴木砂羽を迎える新作は「高嶺の花とは、崖っぷちに咲く花。」がキャッチコピー。苦さと笑いのマーブル模様から浮かび上がる女性たちの本音がペヤンヌ流だが、今作はひとりのヒロインに焦点を当てるようだ。

文:徳永京子

作・演出:ペヤンヌマキ

出演:鈴木砂羽 水澤紳吾 大和孔太 高野ゆらこ 土佐和成 後藤剛範 藤井千帆 金子清文

【お問合せ】ブス会* 080-7943-2251

eyes plus 鳥公園「鳥公園のアタマの中展」2

3月5日(火)~10日(日) アトリエイースト

詳細はHPへ



演劇が生まれる直前の瞬間を拡大して見せる

芸劇eyes、eyes plusでは、アトリエを使った実験的な試みにも射程を広げており、その第1弾が昨年の『鳥公園のアタマの中展』だった。主宰の西尾佳織は、過去の戯曲のリーディング公演を日替わりで、しかもすべて違う演出家に依頼、その稽古を日中に公開し、夜に本番を上演した。大好評を博したこの企画の続編が同じアトリエイーストで決定。劇場では味わえない、生々しくも瑞々しい作品の立ち上がり、ぜひ立ち会ってほしい。

文:徳永京子

コンセプト:西尾佳織

【お問合せ】合同会社syuz'gen(しゅつげん) 03-4571-0773

eyes plus ベッド&メイキングス 第6回公演「こそぎ落としの明け暮れ」

3月15日(金)~27日(水) シアターイースト 松本、四日市、北九州公演あり

詳細はP15へ



ちょっとこじれた舞台上の人たちは、みんな私だ

前回公演『あたらしいエクスポーション』が第62回岸田國士戯曲賞を受賞し、ようやく実力に評価が追いついてきた福原充則。耳に届いた瞬間は小気味よいケレン味が、よく聞けば詩情が込められたせりふが惜みなく連射されるその世界は、一度ハマると癖になる。新作は魅力的な8人の女優とひとりの男優による群像劇。善意で動きながらお互いをすり減らす“世の中あるある”を、笑いを交えて描くという福原の筆に期待が募る。

文:徳永京子

作・演出:福原充則

出演:安藤聖 石橋静河 町田マリー 吉本菜穂子 野口かおる 島田桃依 葉丸あすか 佐久間麻由 富岡晃一郎

【お問合せ】サンライズプロモーション東京 0570-00-3337

COMING UP NEXT 2019. 4-6

演劇・ダンス ラインナップ

4月5日(金)~7日(日) プレイハウス
芸劇レパトリー

「リチャード三世」

作:ウィリアム・シェイクスピア

演出:王暁鷹

出演:中国国家話劇院

5月9日(木)~12日(日) / 5月18日(土)・19日(日) プレイハウス

芸劇dance ローザス

「A Love Supreme — 至上の愛」

振付:アンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケル&サルヴァ・サンチス 音楽:ジョン・コルトレーン

「バッハ無伴奏チェロ組曲」

振付:アンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケル 音楽:ヨハン・セバスチャン・バッハ

5月4日(土・祝)~6日(月・休)

コンサートホール、プレイハウス、
アトリウム、劇場前広場 ほか

TACT/FESTIVAL 2019

5月~6月 シアターイースト

韓国国立劇団 招聘公演